

「教育と公共」研究部会（第32回）

日時：2022年1月14日（金）13:00～16:00

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：田嶋一・上野正道・浅井幸子・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員

吉久知延所長・山口和人・川上智子（野間教育研究所事務局）

欠席：狩野浩二

内容：（1）田嶋研究員：静岡県自由民権運動にあらわれた教育をめぐる公共的発想

◆自由民権運動は政治運動であると同時に教育運動としての性格も強くもっていた。この時期の教育の自由・自主・自治の主張に胚胎する教育の公共性論とその特質を探りたい

1. 静岡県の自由民権運動の教育運動としての性格

2. 民権派ジャーナリズムにあらわれた初期教育論争

（イ）寄書「今日ノ教育ハ盛大ニ過グル」（「静岡新聞」、1879、1、8-9）のか？—学制期末期の公教育の衰退現象をめぐって

（ロ）「内部ノ開化」と「外部ノ開化」

3. 教育の自由—干渉論とそのゆくえ

（イ）「自由教育令」下での教育の自由・干渉論争

（ロ）教育令の方針転換（政権による新たな干渉教育政策）後の教育の自由・干渉論争

4. 政治と教育をめぐる問題について

5. 民権派の中等教育要求と制度構想—パブリックな中等教育機関を構想する動き

（イ）県立中学校連合問題（1879年）

（ロ）静岡新聞主幹・伊藤欽亮の主張「民間ニ善良ナル私校ヲ興スノ一途アルノミ」

（ハ）朝陽義塾（静岡、宮崎総吾）を母体としての「駿州七郡の共有学校」設立計画

（2）仲田研究員：英国におけるMATを用いた地域学校連携の再構築 Prince Albert Community Trustの試み

◆「断片化」した学校制度：スタンド・アローン（例：フリー・スクール）、全国規模なブランド（例：大学のテクニカルカレッジ）、全国規模のチェーン（例：MATs）など

◆ School-to-school collaboration (partnership and support)：学校間の連携

◆ Prince Albert Junior & Infant Schoolの紹介：困難地域にも拘わらずOutstandingの評価

◆ Prince Albert Community Trustの責任者 Sajid Gulzarの考えを紹介

◆ 2015年と2017年のインタビューにより学校の予算配分、スタッフ全容、活動を紹介